

## 教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和4年10月27日(木) 15:05  
小倉北区役所 8階 812会議室

### 1 開 会

### 2 案 件

#### (1) その他報告

その他報告①「令和4年9月北九州市議会定例会の概要について」

(総務課長)

その他報告②「『北九州市立夜間中学校設置基本計画(素案)』に対する市民意見の募集について」

(企画調整課長)

その他報告③「陳情第118号『学校や園生活において、マスク着用や黙食などの感染予防対策を続けることによる、子供たちの心身の弊害などデメリットへの対策について』」

(学校保健課長)

その他報告④「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果(詳細)について」

(授業づくり支援企画課長)

その他報告⑤「北九州市立図書館の指定管理者候補について」

(運営企画課長)

### 3 閉 会

## 教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- 1 開催年月日 令和4年10月27日（木）
- 2 開催時間 15:05～17:00
- 3 開催場所 小倉北区役所 8階 812会議室
- 4 出席者 (教育長) 田島 裕美  
(教育委員) シャルマ 直美 大坪 靖直 竹本 真実 郷田 郁子 津田 恵次郎
- 5 事務局職員  
教育次長 古小路 忠生  
総務部長 小杉 繁樹  
教職員部長 高松 淳子  
学校支援部長 春日 伸一  
学校教育部長 高橋 英樹  
次世代教育推進部長 澤村 宏志  
中央図書館副館長 金子 二康  
総務課長 久保 慶司  
企画調整課長 浜崎 善則  
教職員課長 立花 昭一  
学校保健課長 中山 賢彦  
指導企画課長 奥村 和美  
学校教育課長 藤井 創一  
生徒指導課長 有田 勝彦  
安全教育担当課長 高宮 滋  
学校支援担当課長 山中 孝一  
部活動地域移行担当課長 野田 久敏  
主幹（不登校支援センター担当） 福嶋 一也  
特別支援教育担当課長 小西 友康  
授業づくり支援企画課長 松山 修司  
運営企画課長 三ツ廣 託規  
奉仕課長 福田 淳司
- 6 書 記 総務課庶務係長 増田 真二  
総 務 課 栗林 奈津子
- 7 会議の次第 別紙のとおり

## 教育委員会(定例会)会議録(令和4年10月27日)

### 1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

### 2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、津田委員と竹本委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・その他報告②『北九州市立夜間中学校設置基本計画(素案)』に対する市民意見の募集について
- ・その他報告③「陳情第118号『学校や園生活において、マスク着用や黙食などの感染予防対策を続けることによる、子供たちの心身の弊害などデメリットへの対策について』」
- ・その他報告⑤「北九州市立図書館の指定管理者候補について」

### 3 案 件

#### (1) 公開案件

その他報告①「令和4年9月北九州市議会定例会の概要について」

総務課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

令和4年9月北九州市議会定例会について、概要を説明するもの。

シャルマ委員/29ページ、部活動について尋ねる。

「合同部活動」や「連携部活動」といった、従来の自分の学校での部活動の様相が変わっている中で、できるだけ部活動に参加できるような工夫を積み重ねていることは、保護者にとっても、子どもの成長にとっても大変意義のあることではないかと思う。

29ページの一番最後の行に、連携部活動において、練習に参加しているチームの一員として大会に出場できないという一行があり、これは、合同部活動は学校単位だから、A中学校、B中学校、合同部活動だから参加できるが、連携部活動だと、個人の参加になり試合に出られないのかと思ったが、現状について伺う。

できれば、連携部活動の方でも、練習に参加しているチームの一員として大会に出場できればよいと思ったため、質問する。

安全教育担当課長/おっしゃるように、現在、合同部活動、A中学校の何部とB中学校の何部がある場合は、一緒のチームとして出場することができる。

だが、連携部活動は自分の学校にその部活動がないため、近隣の部活に入れてもらっている場合は、個人種目、例えば陸上競技、剣道の個人戦、卓球の個人戦については、自分の所属校の選手として出場することができるが、団体部活、球技においては現在出場することができないため、現在中体連に、教育委員会から要望を上げているところだ。

現在、福岡県、福岡市、北九州市ともに、出場できない現状があるため、今、本市としては、中体連に要望しているところである。

報 告 終 了

その他報告④「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果（詳細）について」

授業づくり支援企画課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

令和4年4月に実施した全国学力・学習状況調査について結果及び分析を報告するもの。

大坪委員／教育委員会として、全市の学力の状況がどのような傾向にあり、今後、どのような方向に向かって改善を進めていけばよいのか、そういった意味では、今日説明いただいた報告書は、非常によくできている報告書だと受け止めている。

それぞれ、全国学力・学習状況調査を、誰のために行っているかと言えば、教育委員会のために行っている側面もあり、各学校や各それぞれの先生のために行っている側面もあり、子どもたちのために行っているという側面も、おそらく、主たるものではないにしても一部分あるかと思う。

また、保護者へ北九州市の状況や、それぞれの学校の状況をお伝えし、それぞれ自分たちの課題を理解し、その課題解決に向かって努力していこうというメッセージが、多くの学校で、子どもや保護者に、学校通信等を使い届けられていると想像しているが、どのような形で届けられているのか、その例を伺う。

授業づくり支援企画課長／そもそもの目的として、各学校が分析を行い、自校の課題に寄り添った取組を進めていくことが中心となり、したがって各学校によって課題は異なる。

そのため、教育委員会としても、一律に同じ取組を実施していこうとは考えていない。

現在、課題として挙げた家庭学習については、教育委員会のホームページに家庭学習お役立ちサイトを掲載するなど、調査結果の分析研修を開き、各学校に分析の仕方を教えるなど、数学科の課題もあったため、プロジェクトチームを立ち上げながら、今、課題改善に向かっているところだ。

各学校については、ホームページの中で状況を報告するようにしている。

次世代教育推進部長／各学校がそれぞれ工夫して、保護者に発信をしている。

まずホームページにおいては、全校で、同じ様式で発信をしている。

また、課長が申し上げたとおり、各学校にそれぞれ課題がある。

例えば、数学が課題である学校であれば、学校だより全体に、そちらについて発信していくことがあるかと思う。また、学年、各教科、それらを子どもたちに、具体的な授業の場で提示し、課題に応じた取組を行っている。

郷田委員／全国との比較が中心になるかと思うが、個人の勉強としても、全体の平均と偏差値として、自分はこれほどの位置にいるというのは分かる。

例えば、知識・技能に関して課題があるところまでは分かる。

それをどう引き上げるのかという時に、これを行えば上がるのではないかという想定で行う場合もあれば、例えば、自分は英単語の記憶が弱いという時には、うまく英単語の点数を取れている子がどのような勉強をしているかを見ていくことがあるかと思うが、このようなことを行うと上がるというものを、全国と言うとかなり幅広いため、例えば、何々市はここが強いいため、その成功事例を取り入れる、市内でも、この学校はこの部分が上手にできているため、その成功事例を共有するというところに、取組んでいるのかを伺う。

授業づくり支援企画課長／まず、前述のとおり、各学校によって課題が違うのと同じように、学校内においても児童生徒により、課題は様々だ。

ただ、各学校に今、話をしているのは、各学校ごとにヒストグラムが出る。

その学力層に応じた、勉強が苦手な子、得意な子、それぞれに合った補充の仕方、対応を考えているところだ。

先ほど数学の話をしたが、数学は課題が少し大きかったため、それぞれの学力層に合った取組はこのような取組がよいというようなことは、各学校の校長先生に先月、臨時校長会を開き説明したところである。

今後、そういった動きも各学校ごとにあるかと思われる。

そのため、中学生で、小学校段階から躓いている子は、小学校段階から戻って学習できるようなことであったり、さらに、発展的な問題も取り組めるような問題であったり、教育委員会として数学科の、基礎基本定着問題集を今回まとめ、各学校、希望する学校に配布している。

それらを活用しながら、宿題や補充学習、朝の会等で使ってもらうように考えているところだ。

竹本委員／1点お尋ねする。

今回の、令和4年度の調査報告書だが、前回、昨年度と比べ、だいぶ見せ方、分析結果の表現の仕方が違っているように感じる。

変わったことに何か理由があるのか。

授業づくり支援企画課長／前述のとおりだが、結果を各学校が分析し、自校の課題に取り組んでいくことが目的であり、報告書も何年間も作成してきている。

本年度の方針としては、なるべくシンプルに、見やすくしようというところで、各学校がポイントを絞って見られるような形をテーマとしてつくり、見やすさを重視したため、昨年度よりボリュームが薄くなっている。

竹本委員／承知した。

特に今後の取組のページが、一目で分かる形に示してあるところなどは非常に分かりやすく、よいのではないかと感じている。

1つ気になった部分が、前回は前回で良さがあったと思うが、家庭での生活習慣や学習習慣が、その教科の正答率とどう関係性があるのか、数値化してあった。

それらが、学校と家庭とが連携を図っていくことが大切だというメッセージが、強く示されていたと感じたため、どのような形でもよいが、この調査結果を、学校教育のものだけではなく、家庭の影響も大きいというところで、保護者も受け止める必要があり、大切なのではないかと私は思う。そのため、より多くの方に見ていただき、今後の課題や取組を幅広く共有できるような形で、家庭や地域に向けて、学校が主体だが、積極的に発信していただきたいと思う。

シャルマ委員／2ページ、全体的なまとめの部分をお尋ねする。

まずその前に、小学校、中学校も知識・技能の問題に課題が見られるということで、どちらかと言うと、基礎基本のところだと報告書から分かった。

そして、先ほど説明いただいたように、基礎基本定着問題集を配布され、とにかく基礎基本の部分を、北九州市ではさらに努力していかなければならないことを、教育委員会として発信していることも分かった。

また、考察及び今後の方向性の2番目の丸、「『知識及び技能』の定着

に課題が見られる。」の部分に、本市研究委嘱校の実践事例の研究と発信とある。

今後のことになるのかもしれないが、本市研究委嘱校実践事例について、どのような実践事例があるかを非常に興味深く思ったため、今分かることがあれば伺う。これが1点目の質問だ。

2点目。以前よりこの報告書は、毎年家庭学習の時間についてがテーマになっていると思う。

家庭学習の時間については、各学校、掲示物をつくったり、学校通信で発信されたり、様々な形で啓発されていると思うが、全体のデータとして挙げてきた時には、小・中ともに全国を下回っていることがずっと続いており、教育委員会としても家庭学習の専門の冊子を作成するなど、様々な努力をしてきても、この部分が難しいところがあるかと思う。

竹本委員が先ほどおっしゃった意見とも繋がってくると思うが、全体を見た時には、「全国を下回っている」が続いているかもしれないが、学校によっては、例えば、前年度よりも勉強時間が増えている学校があるなど、そのような学校がもしあれば、それこそ、どのような働きかけをされているのか、どのようなことを継続されたあとにこのような結果が出るのか、そのような実践事例も共有できれば、自分の学校だけの宝物にせず、全市で、皆で盛り上げていけたらよいと思ったが、その点はいかがだろうか。

以上、2点を尋ねる。

授業づくり支援企画課長／学びチャレンジリーディングスクールと言い、来週月曜日に、補充学習の学校が実践発表する。

久しぶりの集合型で、教育センターで集まっての研修となるが、その学校が思永中学校、折尾中学校、石峯中学校なのだが、どの学校も組織的に取り組んでいる。一部の先生が取り組むのではなく、学校が組織的に取り組んでいる。

例えば、数学科の補充を行っているということで、石峯中学校が実践発表するが、数学の先生だけが行うのではなく、担任の先生はもちろん、他の教科の先生も含め、朝の活動から、また帰りの活動という形で、取組を全校・全職員で行っているという取組がある。

やはり結果を出すには、一部の先生だけの働きではなく、全体でベクトルを揃えた取組が必要な部分がある。

そのよい取組については発表会の中で広めていきたいと考えているところだ。

成果を出すには組織的、継続的にというところがポイントになるかと思う。

家庭学習についてだが、授業時間以外にという質問なので、必ずしも家での学習だけではなく、授業時間以外であり、朝の学習、隙間時間などの補充学習もそこには含まれているが、校内での補充学習等は今後、充実させていこうと考えている。

各家庭の状況で結果が上がったかどうかというのは、今後情報を集めながら分析し、よい取組があれば広めていきたいと考える。

津田委員／本市との全国平均を比べて数値が出ているわけだが、平均した場合、各学校間の差異のようなものが、例年に比べて大きかったのか、それとも、概ね、例年と同じような状態での差異で動いているような傾向か。

平均レベルではなく、全体の差異も含めて今後の対策などは考えていったほうがよいため、その辺りについて伺う。

授業づくり支援企画課長／先ほど話したことと重なるが、各学校によって課題は様々だ。

差異は、教育委員会として分析したものは、定番として、平均的にどの位置にいる学校かを基準として、今回の結果はどうだったかを調べたが、結果を出している学校というのは、校長先生がマネジメントしながら、ベクトルを揃えた取組をしている学校だということは分かってきた。

次世代教育推進部長／各学校の差のことだが、最初は平成19年頃に始まったが、長く見れば、その差はずいぶん縮まってきている。

それは、やはり各学校が、それぞれの課題を捉えて着手をしてきたということであり、成果として言えると思う。

多少、年度により差はあるが、大きく見れば、右肩上がりでその差は縮まってきているということは申し上げる。

報 告 終 了

(関係者以外退出)

## (2) 非公開案件

その他報告②「『北九州市立夜間中学校設置基本計画（素案）』に対する市民意見の募集について」

企画調整課長が報告。

〔報告要旨〕以下の項目について報告。

「北九州市立夜間中学校設置基本計画（素案）」に対する市民意見の募集について、報告するもの。

報 告 終 了

その他報告③「陳情第118号『学校や園生活において、マスク着用や黙食などの感染予防対策を続けることによる、子供たちの心身の弊害などデメリットへの対策について』」

学校保健課長が報告。

〔報告要旨〕以下の項目について報告。

- ・ 陳情内容
- ・ 処理方針

報 告 終 了

その他報告⑤「北九州市立図書館の指定管理者候補について」

運営企画課長が報告。

〔報告要旨〕以下の項目について報告。

北九州市立図書館の指定管理者候補について、報告するもの。

報 告 終 了

## 4 閉 会

16:45 田島教育長が閉会を宣言